

平成 30 年度

「運営に関する計画」

日本橋小中一貫校
大阪市立日本橋中学校
大阪市立浪速小学校

平成 30 年 4 月

日本橋小中一貫校 大阪市立浪速小学校 大阪市立日本橋中学校
平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- ・本校は、平成 29 年 4 月より施設一体型小中一貫校として開校し 2 年目を迎える。開校当初からの多くの課題を解決しながら、学校運営の基盤を作ってきたが、小中一貫校ならではの課題・運営基盤を確立していく必要がある。
- ・児童・生徒の自己肯定感を向上させていく必要がある。「自分には良いところがある」「夢・目標をもっている」などの結果が全国平均と比較してもかなり低い状況である。学習面のみならず、キャリア教育・体験学習などの活動を拡大し、数年先を見据えて自己肯定感を高めていく。
- ・児童・生徒の学力向上を目指すため、新しい教育環境やカリキュラム編成などを取り入れ、教職員の資質向上を図っていく。本校には「3 年生以上で 1 人 1 台貸出しができるタブレット端末を所持している」という強みがあり、ICT を活用した授業展開も推進していく。
- ・平成 30 年度、浪速小学校では「大阪市・プログラミング教育推進事業協力校」として、協力企業等と連携し、プログラミング教育出前授業・体験イベントの導入を行う予定である。また、日本橋中学校では「学力向上推進モデル校」として中学校数学科に焦点をあてて、学力向上に取り組んでいく予定である。
- ・開校以来、学校や子どもたちへ愛情を注いでいただいている地域・PTA としっかりと連携するとともに、基本的な生活習慣（あいさつ・睡眠確保・朝食喫食・ルール遵守）を向上させていきたい。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ・平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがあると思いますか」「学校のきまり・規則を守っていますか」「挨拶をしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を平成 29 年度より向上させる。
- ・毎年度末の校内調査において不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。
- ・生徒・保護者アンケートにおいて、校内が美しいと回答する割合を 90 % 以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の宿題をしている」「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える児童（生徒）の割合を平成 29 年度より向上させる。
- ・各年度の小学校学力経年調査（中学校チャレンジテスト）における正答率 2 割以下の児童（生徒）を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 29 年度より 5 ポイント減少させる。
- ・平成 33 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における種目（20 m シャトルラン・上体おこし）の校内得点平均を毎年度向上させる。
- ・健康・生活習慣に関する啓発活動を行い、健康に留意させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- ・年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を小学校、中学校ともに95%以上にする。（小中共通）
- ・年度末の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を小学校、中学校ともに90%以上にする（小中共通）前年：88.2%
- ・年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童（生徒）数を前年度より減少させる。（小中共通）前年：小3人 中4人
- ・平成30年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童（生徒）の割合を、小中合計で前年度より減少させる。→小中共通）前年16名

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・平成30年度の小学校学力経年調査（中学校チャレンジテスト）における標準化得点を、前年度より向上させる。（標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと）
- ・平成30年度の小学校学力経年調査（中学校チャレンジテスト）における正答率【得点】が市平均【府平均】の7割に満たない児童【生徒】の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。
- ・平成30年度の小学校学力経年調査（中学校チャレンジテスト）における正答率【得点】が市平均【府平均】を2割以上上回る児童【生徒】の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。
- ・平成30年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より増加させる。→前年 小 77.4%、中 80.5%
- ・平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である（20mシャトルラン、上体おこし）の平均の記録を、前年度より向上させる。

20mシャトルラン 5年生：男子 50.7、女子 36.9

8年生：男子 79.3、女子 53.3

上体起こし 5年生：男子 15.2、女子 14.7

8年生：男子 28.3、女子 25.5

3 本年度の自己評価結果の総括

--

(様式 2)

日本橋小中一貫校 大阪市立浪速小学校 大阪市立日本橋中学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】	
全市共通目標 ① 平成 30 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を小学校、中学校共に 95%以上にする（小中共通）→前年：小 90.0% 中 85.7% ② 平成 30 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を小学校、中学校共に 90%以上にする（小中共通）。 → 前年 88.2% ③ 平成 30 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童（生徒）数を前年度より減少させる。（小中共通）→前年： 小 3 人、中 4 人 ④ 平成 30 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童（生徒）の割合を前年度より減少させる。（小中共通）→ 前年：小中共通 16 名	
学校目標 ⑤ 学校アンケートで「あいさつをしていますか」の質問に対し、肯定的回答をする児童・生徒の割合を、1 回目より 2 回目に向上させる。 ⑥ 学校情報公開を積極的に行うため、学校ホームページアクセス数を、前年対比 110%以上にする。 ⑦ 校内美化に向け、学校アンケートで「いっしょに清掃活動に取り組んでいる」に対し、肯定的な回答を前年実績より向上させる。 ⑧ 防災・減災教育を推進するため、区役所等関係諸機関・地域と連携した防災訓練を年 1 回以上実施する。	

<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> <p>取組内容①③④ 【施策 2】いじめ解消に向けた活動推進</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校安心ルールに基づき、「日本橋小中一貫校 いじめ防止基本方針」を策定する。 2. いじめアンケートを年間 3 回実施し、「いじめ防止基本方針」に則った対応を実施する。 3. いじめに迅速に対応できるよう、人員配置強化を行う。→生活指導支援員配置 4. 道徳教科化をチャンスととらえ、お互いを認め合う風土つくりを実施するとともに、「いじめについて考える日」の取組み強化を図る。4 月の生活目標を「友だちと仲よくしよう」に設定し、年度スタートである 4~5 月に全体で啓発する。 5. 子育て支援室・子ども相談センター・警察等専門機関との連携を図る体制を構築し運用する。また、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの積極活用を実施する。 6. 教職員研修会（ハラスメント・体罰防止・特別支援教育等）を、年 6 回以上実施する。 <hr style="border-top: 2px dashed #000; margin-top: 20px;"/> <p>指標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上記実践項目の着実な実行をしている状態を維持する。 2. アンケートで、「自分にはよいところがある」と答える児童・生徒の割合を前年より向上させる。→前年：69.0%（全国平均：77.9%） <p>取組内容②⑤⑦ 【施策 2】学校の決まり、規則の順守・規範意識の向上</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活目標を月別に設定し、生活目標の実践を具体的に行う。「決まりを守る」ことについては、強化月間を設定して取り組む。 2. 「あいさつ」を広げていくための仕掛けとして、「あいさつ週間」を 6 月に実施する。 3. 清掃活動の方向性（担当範囲・教職員の役割等）を明確化し、特別教室の多い東館など掃除の行き届いていない場所も含めた実践管理を行う。小学校では、初めてたてわり班を活用した清掃活動（大掃除）を導入する。校内美化強化月間を設定する。 4. 情報モラル教育を実施する。 <hr style="border-top: 2px dashed #000; margin-top: 20px;"/> <p>指標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 月毎の生活目標をすべての月で設定。そのうち「決まりを守ること」に関する目標を年間 4 か月以上設定し、強化月間として具体的行動を実践する。 2. アンケートで、「あいさつができていますか」に対し、肯定的な回答をする児童・生徒の割合を、1 回目より 2 回目に向上させる。 3. たてわり清掃・校内美化強化月間（2 月）を計画通り実施する。 4. 外部講師を招いた情報モラル教育を中学生対象に年 1 回実施する。 	<p>進捗 状況</p>
---	------------------

取組内容⑥【施策 1】学校情報公開

1. 学校ホームページの更新回数を増加させる。

指標

1. 今年度、学校ホームページのアクセス数を、前年実績より 10%以上増加する。

取組内容⑧【施策 2】防災・減災教育

防災・減災教育を推進するため、区役所等関係諸機関・地域と連携した防災訓練を実施する。体験メニュー「応急手当・水消火器・煙テント・可搬式ポンプ要領・車いす体験」等を、9か年を見据え継続的に児童・生徒が体験学習できる形を構築していく。

指標

1. 大規模災害時初期対応マニュアルを 5 月末までに整備する。
2. 関係諸機関・地域と連携した大規模防災訓練を、小中連携で 6 月に実施する。
3. 救急救命講習・避難訓練を、小中で実施する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

日本橋小中一貫校 大阪市立浪速小学校 大阪市立日本橋中学校
平成30年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】	
全市共通目標（小・中学校）	
<p>① 平成30年度の小学校学力経年調査（中学校チャレンジテスト）における標準化得点を、前年度より向上させる。（標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと）</p> <p>3年生：96.0、4年生：87.5、5年生：85.5%、6年生：86.9% 7年生：88.3、8年生：96.1%、9年生：90.0%</p> <p>② 平成30年度の小学校学力経年調査（中学校チャレンジテスト）における正答率【得点】が市平均【府平均】の7割に満たない児童【生徒】の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。</p> <p>③ 平成30年度の小学校学力経年調査（中学校チャレンジテスト）における正答率【得点】が市平均【府平均】を2割以上上回る児童【生徒】の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。</p> <p>④ 平成30年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童・生徒の割合を、前年度より増加させる。→前年：小 77.4%、中 80.5%</p> <p>⑤ 平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である（20m シャトルラン、上体起こし）の平均の記録を前年度より5ポイント向上させる。</p> <p>20m シャトルラン 5年生：男子 50.7、女子 36.9 8年生：男子 79.3、女子 53.3 上体起こし 5年生：男子 15.2、女子 14.7 8年生：男子 28.3、女子 25.5</p>	
学校目標（小・中学校）	
<p>⑥ キャリア教育を充実させ“楽しい学校づくり”に着手する。校内調査にて、「夢や目標を持っていますか」の質問に対し、肯定的回答をする児童・生徒を60%以上にする。</p>	

<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> <p>取組内容①②③④【施策5】学力向上に向けた活動の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. すべての教科の基礎・基本となる国語力向上のため、読書活動の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書タイムを週2回（月・木）実施。 ・読書週間を秋に設定し取組む ・読書環境の整備（小：ブックバッグ設置 中：学校元気UPと連動・図書のバーコード化） ・月1回の読み聞かせ実施 2. 小学校・中学校で、放課後学習の充実を図る。 3. 小学校で、プログラミング教育を推進する。 4. 中学校で、数学の学力向上に向けた授業力向上を目指す。 5. 小中一貫校のメリットを活かし、教科担任制を小学校の高学年に一部導入し、次年度以降の拡大に向けた基盤を構築する。 6. 学力向上に向けた施策として、「学びサポーター」の配置を実施する。 7. ICT（タブレット端末）を活用した授業展開を強化する。そのための教職員研修会を年3回実施する。 <hr/> <p>指標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 朝の読書タイム・読書週間・読書環境の整備・読み聞かせの実施について、計画通りに実行できている状態を作るとともに、学校図書館貸出冊数で前年実績を超える。 2. 小学校では、浪速まなび支援事業による放課後学習を軌道に乗せる。中学校では、学校元気アップの参加人数を、前年より増加させる。 3. 「大阪市・プログラミング教育推進事業」協力校として、ダイセン電子工業様と連携したロボット出前授業を年1回実施する。 4. 大阪市教育委員会指定の「学力向上推進モデル校（中学校数学）」の取組みを着実に推進し、平成31年度全国・学力学習状況調査において中学校数学の得点を前年より改善する。 5. 英語（5・6年生）・音楽（6年生）・家庭科（6年生）において、中学校教諭が小学生を教える教科担任制を導入し、計画どおり授業を実施する。 6. 学習支援を担当する「まなびサポーター」を、年間600時間以上配置する。 7. タブレット端末を活用した授業を、全教職員が1回以上実施する。 	<p>進捗 状況</p>
<p>取組内容④【施策3】話し合い活動・自分の考えを深め広げる活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学生を対象に、大阪の歴史やごみ焼却場・平和学習などの体験学習として社会見学を導入し、考えを話し合ったり深めたりする活動を進める。 2. タブレット端末を活用した授業回数を向上させ、自分の考えを効果的に伝える機会を創出する。 3. 小中一貫校のメリットを最大限活かし、学年間を飛び越えた話し合い・活動の場を増加させ、施策を推進する。 	

指標

1. 小学校3~6年生の各学年で、年間1回の社会見学を実施する。
2. タブレット端末の活用頻度を、前年より5%増加させる。
3. たてわり班活動を強化し たてわり清掃・中学生から小学生に対しての読み聞かせ・運動会見学（小→中）・文化祭鑑賞（小→中）を実行する

取組内容⑤【施策7】運動への興味・関心を引き出す取組

1. 計画委員会による「なかよし集会」等を活用し、運動に親しむ活動を計画的に組み込んでいく。「なわとび週間」を実施するとともに昨年できなかった「大なわ大会」を新たに開催する。
2. 運動に意欲・関心をもってもらうことを目的に昼休みに、グラウンドと体育館を開放し、運動の場を創出していく。
3. 今年度より、中学校の部活動に小学校6年生が仮入部できる体制を構築する。部活動に小学生のときから参加できる環境を作る。
4. 学校アンケートで運動会・球技大会を年間計画に落とし込み、計画的に実施し、「運動が好き」と回答する児童・生徒を増加させる。

指標

1. なわとび週間を冬季に実施するとともに、昨年できなかった「大なわ大会」を新たに開催する。
2. グラウンド・体育館の開放計画を年度当初に立て、計画通り実行する。
3. 中学校部活動（野球部・卓球部・バスケットボール部・バドミントン部）への早期仮入部体制を1学期中にスタートすることにより、早くから運動に親しむことができる機会を作っている状態を構築する。
4. 「運動が好き」と回答する児童・生徒の割合を前年より増加させる。

取組内容⑥【施策1】キャリア教育 「夢・目標をもっているか」

自尊感情を高めていくため、将来の夢を育む教育を推進する。そのため、authentic（本物）に触れる機会を創出していく。

1. 小学校・中学校を対象に、芸術鑑賞会を実施する。
2. 小学校5年生を対象に、夢を育む授業「Dream Map」を実施する。

指標

1. 芸術鑑賞会を小・中で各年1回実施する。
2. 経産省キャリア教育アワードを受賞した夢を育むアクティブラーニング型プログラム「Dream Map」授業を5年生対象に実施する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点